

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2071100305		
法人名	有限会社 カインズ・ライフ		
事業所名	グループホームなかの		
所在地	中野市岩船292-1 (電 話) 0269-23-2200		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年10月19日	評価確定日	平成19年11月14日

【情報提供票より】 (平成19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	12人, 非常勤 6人, 常勤換算 13.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要 (平成19年 9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	16 名
要介護 1	6	要介護 2	7	
要介護 3	1	要介護 4	4	
要介護 5	0	要支援 2	0	
年齢	平均 85.2 歳	最低	76 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・アライクリニック ・北信総合病院 ・(医) 岩下歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲にマッチした重厚な木造二階建てのホームが中野市街地に通じる国道29号線から入った閑静な場所にある。昔からの土地柄からかホームを取り巻く環境は人情味豊かな人間関係とともに羨ましいほどに恵まれている。ホーム開設から二年目ではあるが、地域との関わりも一年間で急速に進み、運営推進会議の地道な積み重ねとホームの企画による初めての秋祭りの開催に向けた努力が実りつつある。開設以来、市担当職員が熱心に相談に応じてくれており、課題解決にむけた協働関係が構築されつつある。各入居者は得意分野で一人ひとりの力を発揮できる役割があり、職員も支援している。余暇には楽しみごとへの支援もこまめにされている。職員も定着し、入居者との馴染みの関係も築かれつつあり、「本人の困っている事は何か」という視点から信頼関係を作ることに力を入れて取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回改善を期待された「地域の方たちとの交流」については運営推進会議の開催効果とともにホームの努力にもより急速に進んでいる。玄関や居間、洗面台などに季節の花などを飾ったり、入居者による短歌の短冊などが飾られており華やかさにも配慮がされていた。職員会議の定例化については更に前向きに検討されることを期待したい。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価担当の責任者を決め、4~5人の職員で話し合い、自己評価し、改善に取り組んでいる。職員のインタビューからも「自己評価により自らのサービスを客観的にふり返ることができ、意識の向上にもつながった」との前向きな発言も聴き取れた。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は家族代表、区長、民生児童委員、市担当課職員等で構成されており、概ね2ヵ月に1度開催されている。会議ではメンバーからの要望・意見を伺うとともに、家族会の報告やホーム主催の秋祭りの報告等、ホームの活動状況や外部評価の予定・結果の報告等も行われている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会時、全体会議やユニット毎に家族と話し合う機会があり、その後の個別相談でも意見・要望等を聴いている。意見・要望等は職員間で検討し、家族への説明と併せサービスにも反映させている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域で行われる「ふれあいサロン」、育成会主催の「もちつき」、地区の「秋祭り」などの行事に参加している。地区秋祭り際には併設のデイサービスのホールにてお神楽も見ることが出来る。毎日の散歩で、近所の方に出会ったときは挨拶をしたり、近隣の人々との日常的な交流も出来つつあり、入居者手作りのおみやぎやおはぎをお裾分けしたり、逆に野菜等の差し入れを頂くこともある。ホームの企画による秋祭りには入居者・家族、近隣の方々等多数の参加があった。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に加え、「地域の方々との交流を大切に、お互いの関係を深め、利用者の方々がその人らしく普通に地域の中で暮らし続けることを支援します。」を加えた。ホーム玄関には入居者家族、来訪者等にもわかるように掲げられていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時に管理者・職員全員で理念を唱和し確認し合うようにしている。日々のサービスの提供時にも理念を念頭に取組んでいる。職員のインタビューでも理念を十分咀嚼・理解していることが伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる「ふれあいサロン」、育成会主催の「もちつき」、地区の「秋祭り」などの行事に参加している。地区の秋祭りの際には併設のデイサービスのホールにてお神楽(獅子舞い)も見ることができる。近隣の人々との日常的な交流も出来つつあり、入居者手作りのおやきやおはぎをお裾分けしたり、逆に野菜等の差し入れを頂くこともある。ホームの企画による初めての秋祭りには入居者・家族、近隣の方々等多数の参加があった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価担当の責任者を決め、4～5人の職員で話し合い、自己評価し、改善に取り組んでいる。職員のインタビューからも運営者も協力して改善に取り組んでいることが伺えた。前回の要改善事項にも前向きに取り組んでいる。		

グループホームなかの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表、区長、民生児童委員、市担当課職員等で構成されており、概ね2カ月に1度開催されている。会議ではメンバーからの要望・意見を伺うとともに、家族会の報告やホーム主催の秋祭りの報告等、ホームの活動状況や外部評価の予定・結果の報告等も行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内の介護サービス事業所の合同会議の際に市担当課職員とコミュニケーションをとっている。開設以来、市担当職員が熱心に相談に応じてくれている。2カ月に1度市の介護相談員2名の来訪があり、入居者とも関わっていただき、貴重な意見もいただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホームだより・なかの通信」や本年から年1回開催予定の家族会等で入居者の暮らしぶりが報告されている。家族の面会時にも担当職員が報告する機会を設けている。健康状態についてはその都度連絡・報告している。金銭については月1回小遣い帳のコピーを送付し、面会時にも説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の時、全体会議やユニット毎に家族と話し合う機会があり、その後の個別相談でも意見・要望等を聴いている。意見・要望等は職員間で検討し、家族への説明と併せサービスにも反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来の職員も数名おり、職員の定着率は年々高くなってきている。やむを得ず異動等がある場合は、新しい職員にも入居者の情報を引継ぎ、入居者に早期に関わることができるように取り組んでいる。	○	やむを得ない事情で職員が交代する場合は引き継ぎの期間を十分に取り、更にスムーズに移行できるよう配慮して欲しい。

グループホームなかの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に応じ、職員が外部の研修を受ける機会を設けており、会議時に報告され共有化されている。法人やホーム内の勉強会も3ヵ月に1回程度開催されており、技術や知識を習得する場も設けられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	加盟している県宅老所・グループホーム連絡会を通じ、広域圏内のグループホームとの交流会を持ち、相互訪問などを行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居等はないが、入居前に本人・家族にホームを見学してもらい、職員と話をする機会を設け、安心感を持っていただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常生活の中で掃除、洗濯物干し・畳み、食事の準備・後片付け、花の栽培・管理等を入居者とともにやっている。共に暮らす中で、年長者である入居者から生活の知恵や技を教えていただいている。		

グループホームなかの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から生活史等を聴き取り、記録に残し、職員間で共有・把握している。入居者との会話やつぶやき、本人の行動等から一人ひとりの思いや意向を感じ取り、職員間で話し合いながら把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「本人の困っている事は何か」という視点から介護計画が作成されている。随時カンファレンスを実施し、ケアに携わっている職員で検討し、入居者主体の暮らしを反映した計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況や効果を評価するとともに本人や家族の要望に応じ見直しをしている。概ね6ヵ月に1回実施しているが、状態変化が生じた時は随時見直しを行い、継続の可否を判断し、変更する箇所があれば計画に落とし直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院の支援、外出の支援、入院時の衣類の洗濯支援など柔軟に対処している。		

グループホームなかの


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	市内出身の入居者で半数程度を占めるが、入居後も同じかかりつけ医を継続する方もいる。変更する場合は本人及び家族の希望を大切に、相談しながら決めている。複数の医療機関との協力関係も緊密に保たれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで終末期を迎え、入院され、亡くなられた過去の経緯がある。重度化した入居者の家族には状況を説明し、かかりつけ医や職員を交えて話し合いを行い、方針を共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	訪問調査日昼食時に同席させていただいたが、一人ひとりの入居者に合わせ職員の言葉使いにも配慮が見られた。個人情報の保護についても契約書の「秘密保持」の条文中に明記されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの体調を見ながら、本人の気持ちを尊重し希望を聞きながら支援している。職員は傾聴の姿勢を保ち、会話も入居者のペースで話せるようにゆったりと聞いている。		

グループホームなかの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者はそれぞれ出来ることに参加され、職員と一緒に調理、盛り付け、配膳、食器の片付け等を行っている。昔懐かしい曲が流れる中、小人数掛けのテーブルで職員も入居者と一緒に食事をし、和やかで家庭的な雰囲気作りにも配慮がされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のその日の希望を聞き、入浴できるようにしている。時間帯は午後の午睡後が多かったが、入居者の重度化に伴い入浴時間もかかることから午前中も含め調整をする日もある。夜間の良眠につなげるため、夕刻に入浴を希望する方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の得意分野で調理や掃除、花の管理など一人ひとりの力を発揮できるような役割があり、職員も支援している。余暇には短歌やぬり絵を楽しんだり、昔の曲を歌ったり、テレビや新聞を見たりと楽しみごとへの支援もこまめにされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ふだんは全員で近隣への散歩や買物に出かけている。シーズンになると市内の桜・バラの名所や市街地で行われる夏祭りの見物などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関に鍵をかけていない。職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、見守りや声かけを重視し取り組んでいる。		

グループホームなかの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練を年2回(5月、11月)実施している。地域の方々を交えての避難訓練も検討している。消火器や非常通報装置の点検・取替え時には機器の説明を受けたり、実際に使用し試している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の日報等に食事と水分の摂取量を記録し把握している。一人ひとりの好みも把握しており、食欲不振時の献立に取り入れ対応している。刻み食等、食べやすく調理し、食が進むように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットともコンパクトな中にもベンチの置かれた玄関や洗面台、ソファのあるリビング、コタツの置かれた小上がりなど、休んだり談話の出来る空間が随所に見られる。浴室は家庭風呂と同じ大きさで各ユニット中央に配置されている。トイレも数ヶ所あり、どの居室からも行きやすいような工夫がされ、入居者の利便性にも配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者の思い思いの居室づくりがされており、テレビや冷蔵庫、位牌等、使い慣れたものや大切なものが持ち込まれている。本人にとって居心地の良い環境になるように支援されている。		

※  は、重点項目。